

レジ袋の価値の再構築

Re-thinking The Value Of Plastic Bags

相川 実来



資源の寿命を延ばす

使い捨てのイメージが浸透しているレジ袋の概念を打ち壊し、長く愛用したくなる袋へと生まれ変わらせる。最近では環境面から脱プラの動きが広まっているが、プラには他にない沢山の長所があることも事実だ。今後のプラのあり方として、廃棄を減らし長く大切に使う選択肢を提案したい。

Extending The Lifetime Of Resources

By removing the negative image of plastic bags being disposable, we can create a bag that will want to be used for a long time. While there has been a move away from plastic in recent years, plastic does have many advantages that cannot be found elsewhere. I propose a new way of utilising plastic that reduces the amount of plastic going to landfill, while also making the bags more durable.

1

レジ袋をテープ状に切り、よくしごいてから編機で編んでいく。こうすることで、ビニール袋特有のカサカサ音や、シワも目立たない柔らかな質感へと変身した。

2

使用イメージ。重いものを入れても裂けたり伸びたりする事なく、しっかり荷物を支えてくれる。汚れた場合は、水洗いをして繰り返し使用可能。

3

元のレジ袋。編んでいくと店のロゴなどの文字が、主張しすぎることなく袋に彩りを加えてくれる。